秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

女岳（めだけ）付近では2015年頃まで地熱域の拡大が認められ、その後も熱活動のやや高い状態が続いています。一方、2017年９月以降、山頂付近を震源とする火山性地震の発生頻度がやや高い状態を維持していますが、短期的には2026年２月以降、低下しています。火山活動による地殻変動も観測されず、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２-①）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気の高さは 10m以下で、噴気活動は低調に経過しました。同観測点の赤外監視カメラによる観測では、女岳の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図２-②～⑤、図３、図４）

女岳を含む山頂付近では 2017 年 9 月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態が継続していますが、2026 年２月以降は低下しています。
６日に低周波地震を１回観測しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図５、図７）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

○活動評価

女岳付近では 2015 年頃まで地熱域の拡大が認められましたが、その後大きな変化は認められていません。2017 年９月以降、山頂付近を震源とする火山性地震の発生頻度がやや高い状態を維持していますが、短期的には 2026 年２月以降、低下しています。火山活動による地殻変動も観測されず、噴火の兆候は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています。





図１　秋田駒ヶ岳　女岳周辺の状況（10 月 18 日）と地表面温度分布の状況（10 月 10 日）

・東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約５km）の可視及び赤外熱画像です。

女岳からの噴気の高さは 10m以下で、噴気活動は低調に経過しました。
女岳の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

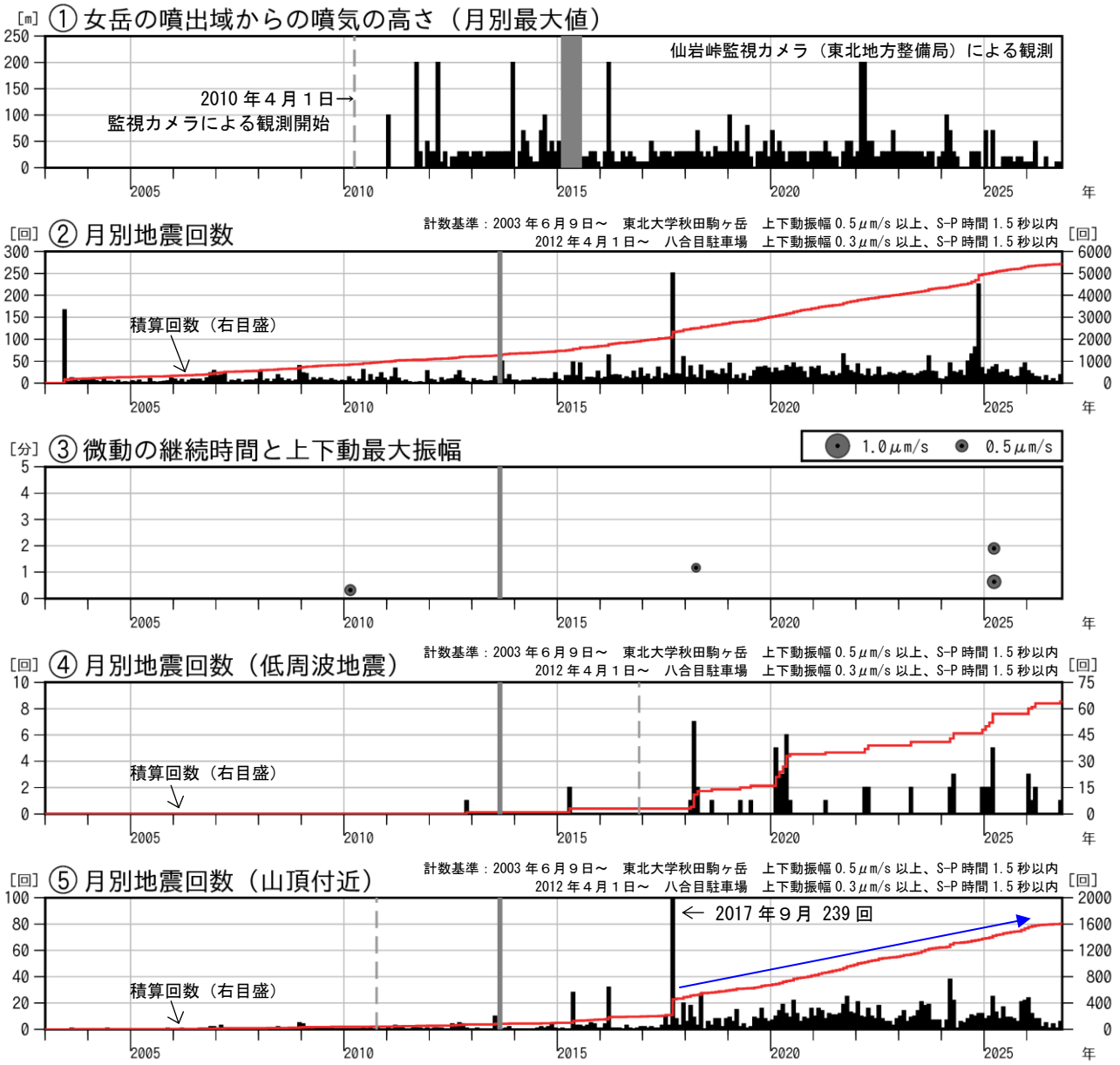


図２　秋田駒ヶ岳　火山活動経過図（2003 年６月～2026 年 10 月）

・2012 年４月１日からの計数に使用する観測点変更に伴い、低周波地震の検知力が上昇した可能性があります。
・④姿見ノ池西観測点の運用開始（2016 年 12 月１日、④破線）以降、検知力向上により低周波地震を判別しやすくなっていると考えられます。
・⑤「山頂付近」で発生したと推定される地震の回数を示しています（「山頂付近」は「女岳付近」の回数も含みます）。2010 年 10 月の八合目駐車場観測点運用開始（⑤破線）以降は、山頂近傍に観測点が配置されたことにより、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
・図中灰色部分は欠測を表しています。

今期間、低周波地震を１回観測しました。

女岳を含む山頂付近では、2017 年９月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移していますが（⑤青矢印）、短期的には 2026 年２月以降、低下しています。

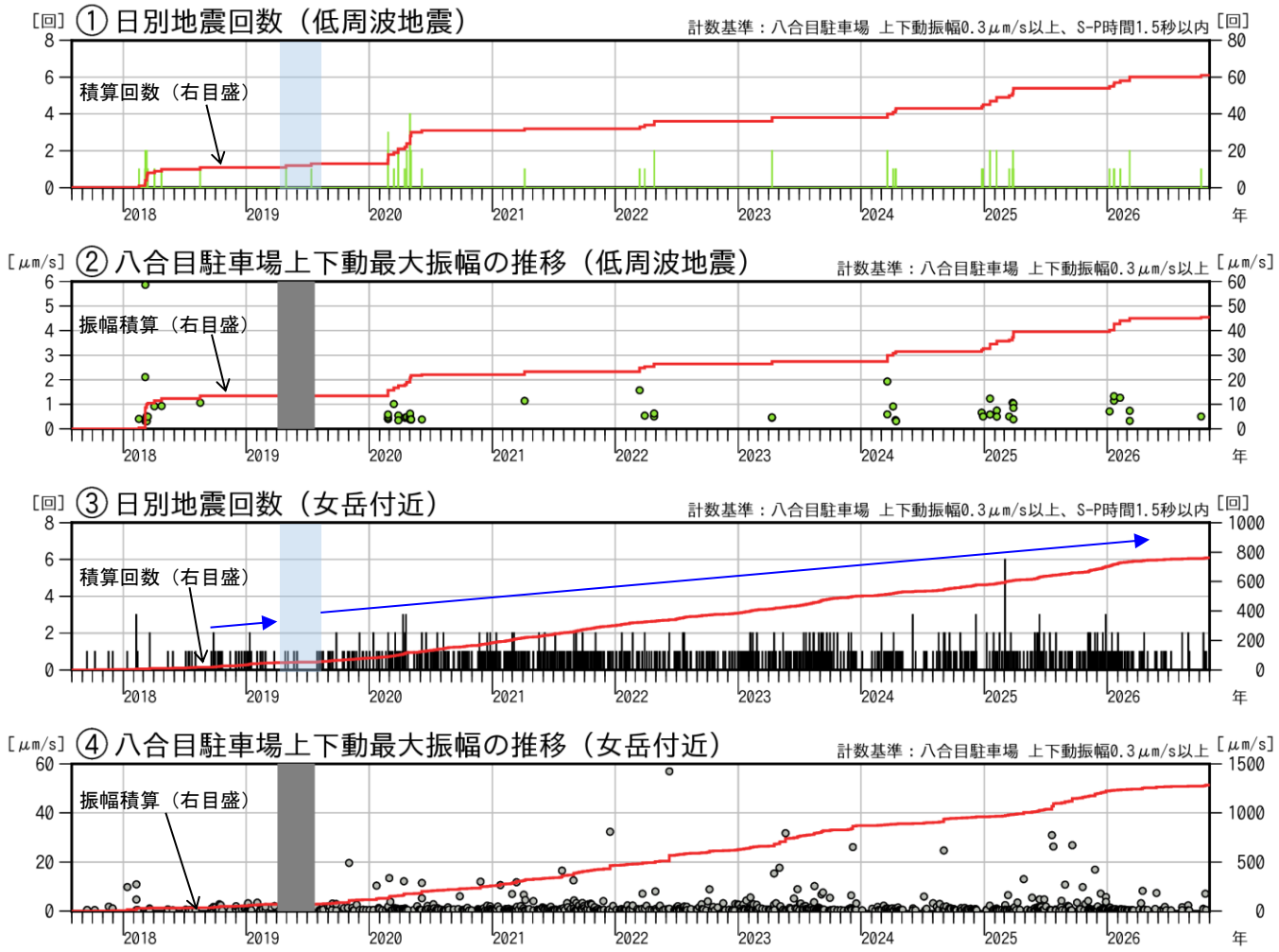
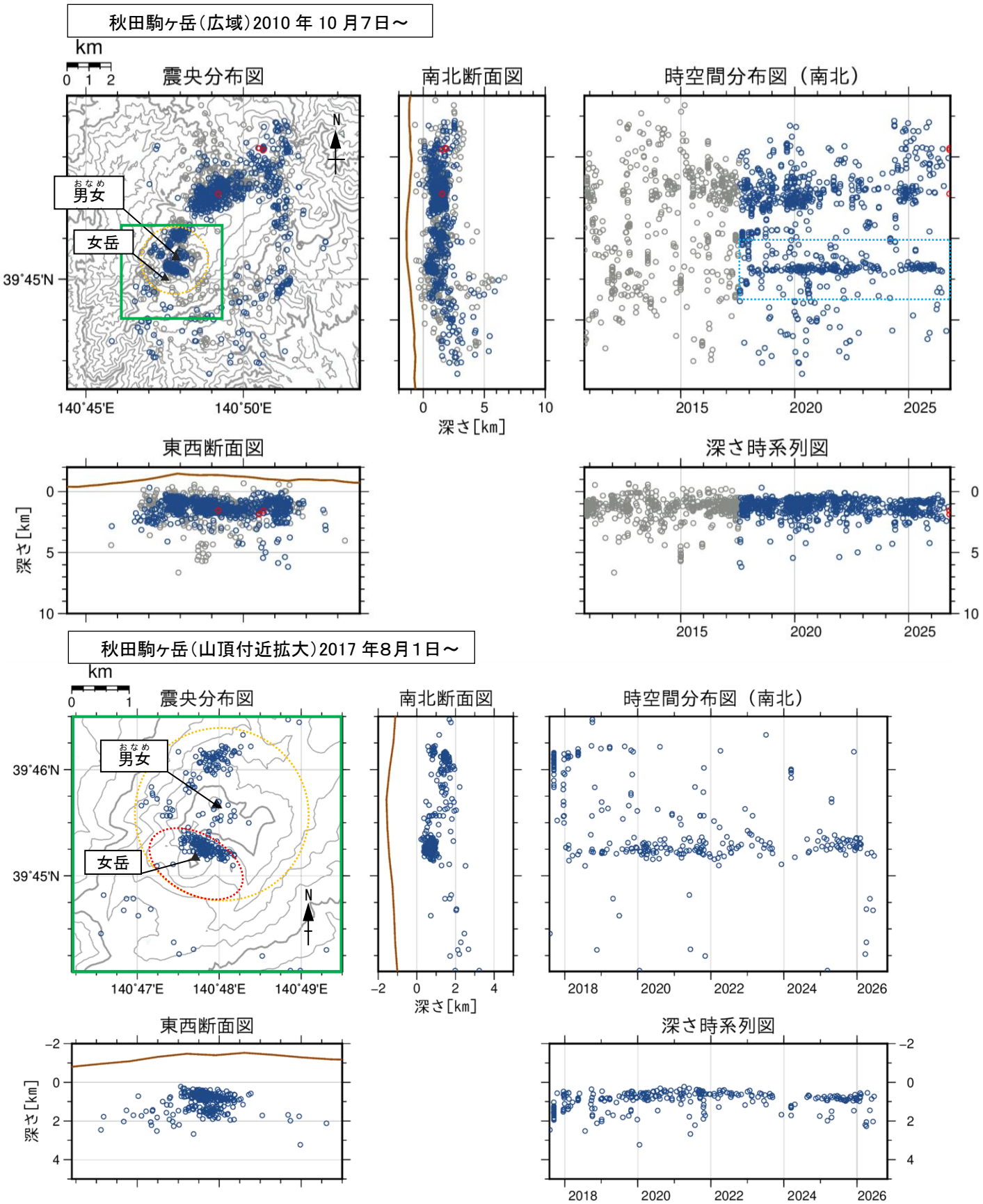


図３　秋田駒ヶ岳　低周波地震及び女岳付近の日別回数と最大振幅（2017 年８月～2026 年 10 月）

・②④の灰色部分は八合目駐車場観測点の欠測期間を示し、①③の青色部分はそれにより検知力が低下している期間を示しています。

６日に振幅の小さな低周波地震を１回観測しました（①②）。

2018 年９月頃から女岳付近の地震の発生頻度がやや高い状態で推移していますが（③青矢印）、短期的には 2026 年２月以降、低下しています。



○：2026 年 10 月１日～10 月 31 日　○：2017 年８月１日～2026 年９月 30 日　○：2010 年 10 月７日～2017 年７月 31 日

図４　秋田駒ヶ岳　地震活動（2010 年 10 月７日～2026 年 10 月）

・橙破線及び赤破線の領域は、それぞれ「山頂付近」及び「女岳付近」としたおおよその領域を示しています。
・2017 年８月１日から姿見ノ池西観測点を震源計算に使用しているため、山頂付近の震源のばらつきがそれ以前より小さくなっています（水色破線）。

女岳付近に震源が求まった火山性地震はありませんでした。

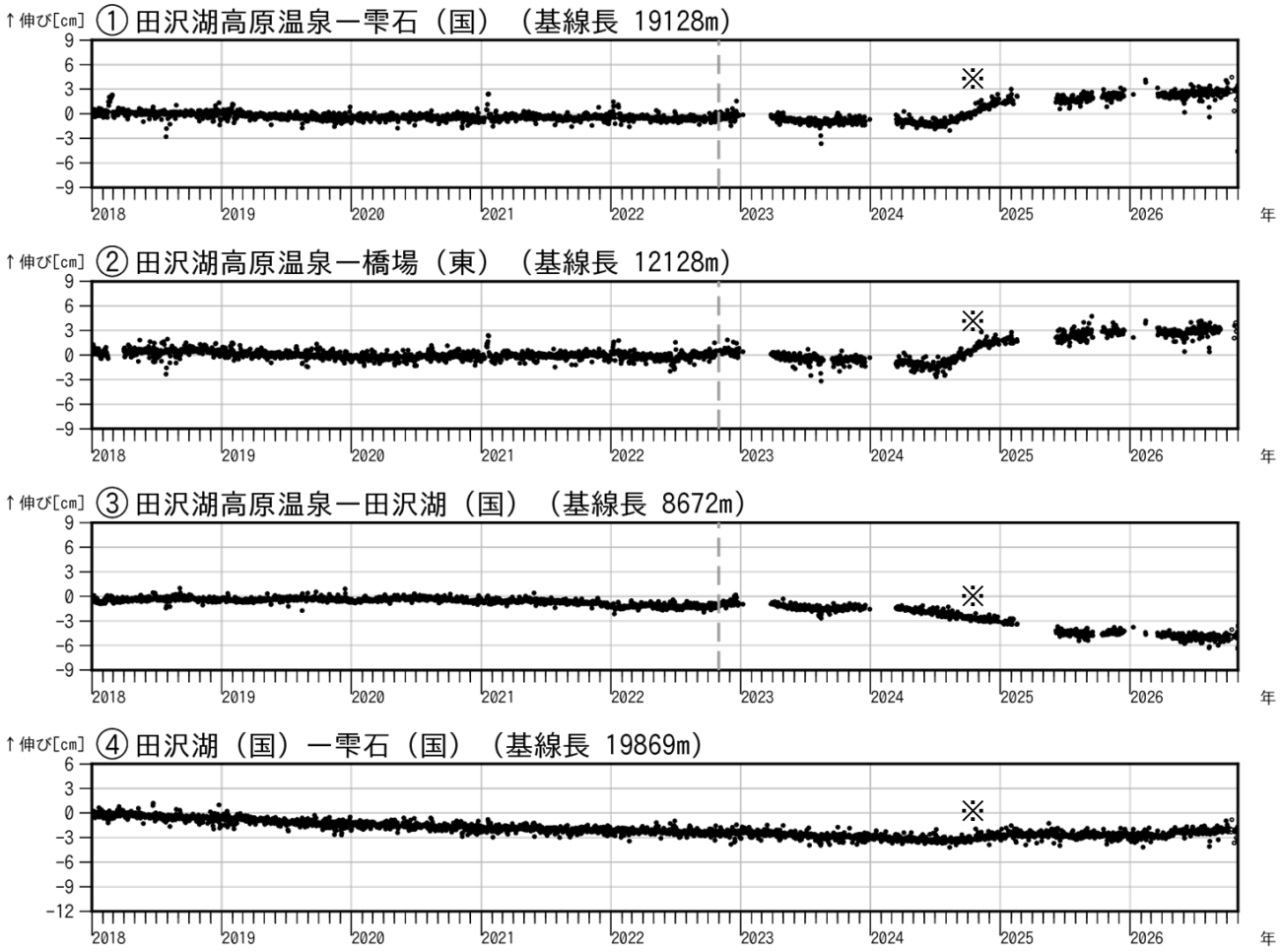


図５　秋田駒ヶ岳　GNSS 基線長変化図（2018 年１月～2026 年 10 月）

・①～④は図７の GNSS 基線①～④に対応しています。
・空白部分は欠測を示します。
・（国）は国土地理院、（東）は東北大学の観測点を示します。
・①～③田沢湖高原温泉観測点の機器更新を行いました（破線）。
・2026 年４月 20 日の三陸沖の地震に伴うと考えられる変動が一部の基線に含まれています。
・白抜き丸のプロットは速報的な解析結果を示しています。
※：岩手山の火山活動に関連する変化と考えられます。

秋田駒ヶ岳の火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

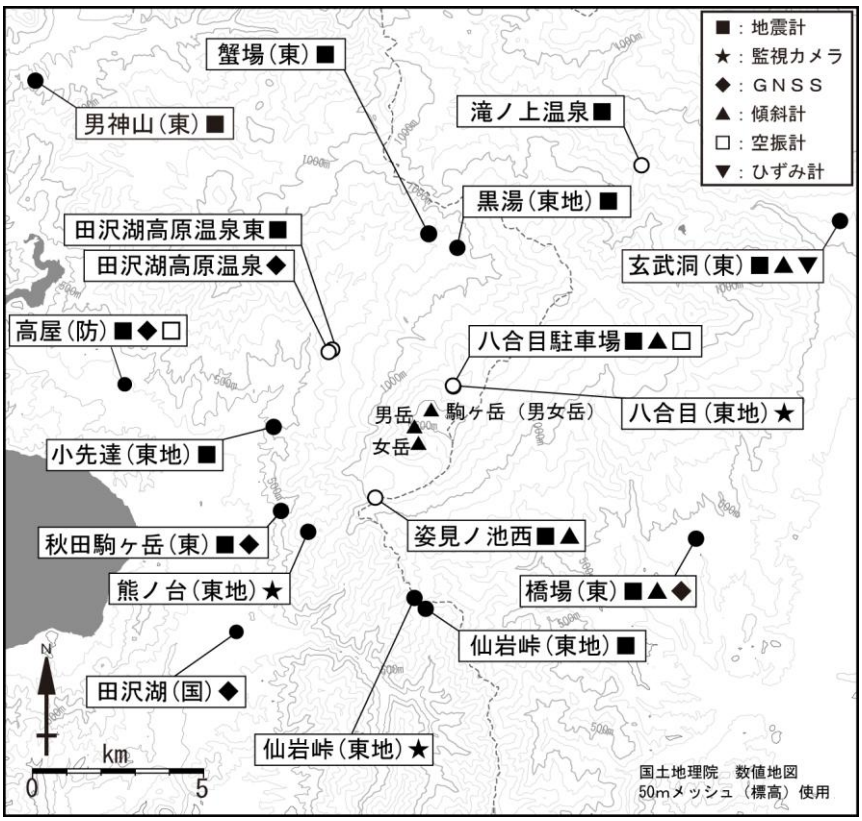


図６　秋田駒ヶ岳　観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東地）：東北地方整備局　（国）：国土地理院　（東）：東北大学　（防）：防災科学技術研究所

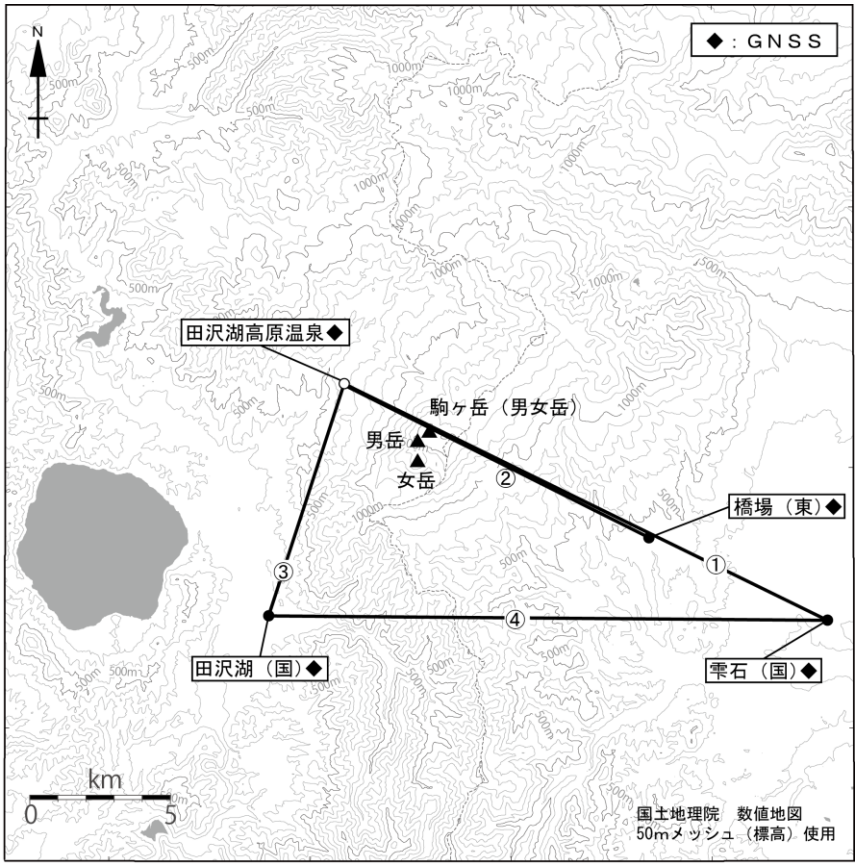


図７　秋田駒ヶ岳　GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院　（東）：東北大学